



九条の樹

103号
2023年11月発行



発行：東久留米「九条の会」 連絡先：TEL 042-473-9489（鈴木）

<http://higashikurume-9.net/> メール：higashikurume9j@gmail.com

イスラエルは市民の 殺戮をやめ 停戦を

イスラエルによるガザ地区への空爆、地上侵攻が行われ、犠牲者が急速に増加しています。世界各国でイスラエルへの非難、抗議の声が上がっています。



イスラエル軍の空爆で破壊されたガザ北部ジャバリヤ難民キャンプのビル（東京新聞）

きっかけはハマスによる攻撃、住民拉致にあり、これも国際法違反の暴挙ですが、今、行われているのはイスラエルによる大規模侵攻です。これに対し国連総会で「停戦決議」があげられています。

日本政府はこの決議採択の際、棄権しました。「ハマスへの非難がない」という理由ですが、今起こっているのは大規模な殺戮であり、攻撃です。これをやめさせようというのが世界123ヶ国の意志です。

今回の戦鬪で多くの人が指摘するのがイスラエルによるパレスチナの占領、封鎖が背景にあるという事です。

ガザ地区では2007年以降完全に封鎖され、数年おきにイスラエルからのミサイル攻撃が行われ

ています。

パレスチナは私たちにしてみると遠い国であり、わかりづらく関心も薄かったと思います。

ウクライナの戦争も続く中、戦争、暴力で物事を解決しようという世界的風潮がはびこることは大変危険です。

子どもたち、市民の命を奪う戦闘行為を停止することを求めます。

エジプト、シリア、パレスチナ、メソポタミアからなる「肥沃な三日月地帯」、古代オリエント文明発祥の地を結ぶ回廊に位置するパレスチナは東西の大国から侵入、征服、支配の対象となってきました。

パレスチナの聖地イスラエルは古来よりユダヤ教徒、キリスト教徒、イスラム教徒の共通の聖地であり、四角い城壁に囲まれた都市で、争いや占領もありましたが、長い歴史の大部分はそれらの人々が共存して暮らしていたといえます。その共存こそ求められています。

（東久留米九条の会事務局）

東久留米「九条の会」18周年のつどい

「憲法ってなに？」

ジエンドーって」

菱山南帆子さん講演



10月9日（月・スポーツの日）に東久留米「九条の会」18周年のつどいが、生涯学習センター（まろにえホール）で開催され、当日は雨天の中160名が来場しました。講演の要旨を2回に分けて紹介します。

私は「許すな憲法改悪市民連絡会」の事務局長を務めています。高田健さんと昨年交代しました。それまで12年間障がい者施設で働きながら市民運動をやっていました。事務局長を引き受けるのを機会に、施設を辞めました。市民運動一本でやっていくことにしました。今日は情勢の話と運動について話したいと思います。

情勢ですが、今とても危ないと感じています。メディアへの支配が強まっていると思います。この間の汚染水問題で国は「汚染水」と言うなど

いうんですね。外国では「汚染処理水」と言ってるそうです。

「サンデーモーニング」で当初は「汚染水」と言っていたのですね。翌週の同番組を見たら、報道方針が変わったのでしようか、「汚染水」のおの字も出ず、中国批判ばかりだったのです。こういう状況があります。

国会内外で新たな戦前が始まっています。今国会で数々の悪法、軍拡財源確保法とか軍需産業支援法、入管法改悪とかが通ったのですが、市民運動、野党の側がうまく対処できなかったのは、岸田さんが解散風を吹かせてマスコミも野党も振り回されたからだと思います。

岸田さんは何考えてるかわからないように見えながら、戦争準備の法整備や、憲法改悪を同時並行でやってしまうので

す。

憲法審査会も最多の頻度で開かれています。世論調査を見ても「憲法を変えてほしい」という国民の要望というのは少ない。自民党などは国会閉会中も開けとっています。憲法審査会で自民党席はがらーんとして、野党だけが崩壊みたくです。維新は国民民主党と一緒に『自民やる気あるのか』とせっついていきます。来年一月には維新、国民で改憲案を出そうと言っています。改憲案の国民投票は、お話し改憲で「緊急事態」一条で議員任期延長だということです。緊急事態のときに選挙ができなくなるというのです。調べてみると、スマトラ沖地震のときや、トルコ大地震のときも選挙が行われました。アメリカのハリケーン被害のときも中間選挙が行われています。1回の国民投票で850億円かかります。

私たちの暮らしますが、一つは言葉の問題です。地下シェルターとか言っています、防空壕といえぱいいと思いますが、Jアラートは空襲警報です。すよね。そのようにいうと戦争中そのままですから、政府はスマートに言い換えていきます。もう既に戦争中の用語が使われているということ。

若い人はネットの影響が大きい。そのなかで言われているのが「節約」です。そういう動画が多い。「貧乏で節約するのは悪くない」と国に言われたくないです。「一人暮らし10万」とか。コンビニの本を見ると食事のこと「なんかめし」とかがブームです。これを利用して「自衛隊めし」とか「ミリタリーめし」。ご自分で自衛隊の勧誘です。

今の若い人達は成功体験が少ない。権利意識がうばわれている。権利で守られたことがないから、権利が大事だと

思わないのです。「年金もらえなくても仕方ない」「賃金上がらなくても仕方ない」、仕方ないの世界で生きている。買いたいものも買わずに我慢して老後に備える。なんでも自己解決、自己責任が一体になっています。

1989年は私が生まれた年ですが、そのころからこういう風潮がありました。失われた30年が始まった年です。バブルが崩壊して、ソ連が崩壊、天安門事件があつて、総評が解体、消費税が導入され、国鉄がなくなつた、すべてが民営化、そういう中で生まれ育ってきた。以前は社会を変えなると良くならないと思つていたのが、自分が変わればいいんだ。この人を信ずれば何か良くなるかもしれない。オウム真理教も出ました。政治に関心を失い、労働組合から離れていったのです。

(次号へ続く・文責事務局)

感想が多数寄せられましたので、抜粋してご紹介します。

- 岸田政権の実態を明らかにし、憲法審査会の実態を教えてください。九条が、益々危機状況にあることを知りました。いま、政府が進めようとしている「緊急事態」、自分たちの都合がよい国会づくり、また巧みに国民がたぶらかされている現実、若者たちのSNSの現状、怒りを沈め、かすめ取りがどうされているか、高齢の私たちが知らない現実を知ることができ、驚きでした。
- 闘った労働組合や市民運動の時代から1989年時代の労働組合の変化、選択肢が失われた現実と、若者たちが考へる力を失ってきている現状、新自由主義の現状を知ることができました。
- 現場で活躍し、現場で感じたことを大事に思想として育てている、その姿勢に感服しました。
- あたたかく、楽しいところに人は集まる、その通りと思いますが、なかなかできません、本当に信念がないとできないなあと思います。
- 中身の濃い、エネルギーシュな、楽しいお話でした。自分しか見ないというのは、自分の子どもの様子からも、そうだなと思えます。でも、今日のようなテンポの良いお話なら、若い人たちも聞きたいと思いました。自分たちの活動の仕方をどうしたいのか考えたいです。
- 若者の心、実態が見えませんでした。つらい世代なんだと思います。貧困の実態は本当につらいものです。ジェンダー平等の実現、明るくワクワクする運動をやっていきましょう。
- 明るく、テンポよく、理不尽と闘うつてのがとてもいいですね。知人友人も誘つて来ればもっと良かったのと思いました。



戦争を起こさせない ことが重要

今、また、イスラエルとガザで悲惨な戦争が起きています。子どもたちや女性や一般市民が多く犠牲になっています。ハマスもイスラエルも攻撃をやめ、即時停戦を！

10月28日（土）11時から12時まで市内11か所で、いっせいでタンデミング宣伝を行いました。ユニセフの「ガザ人道支援



ヨーカドー前
西口

募金」にも取り組みました。鹿山、永田、北村、鴨志田、村山の市議の皆さんと、市民135人、計140人の参加でした。



沖縄映画のつどい



10月1（日）西部九条の会主催で、三上智恵監督の『沖縄、再び戦場へ（仮）』スピンオフ作品と、沖縄テレビ制作のドキュメンタリー『むかしむかしこの島で』の上映会が開催されました。

参加者は、約70名、カンパ額44,700円と概ね好評のようでした。全額を「沖縄、再び戦場へ」製作を応援する会へ送金しました。

『平和を考える本』

『ブックキャット

ネコのないしよの仕事！』

（ポリィ・フェイバー作／徳間書店）

1700円＋税



舞台は第二次大戦下のロンドン。空襲で孤児になった黒ネコのモーガンは、文芸で名高い出版社に迷いこんだ。同社で働く詩人T・S・エリオットに気に入られ、大事な原稿をネズミから守り、交渉がうまくいかなくて落ち込んでいた作家たちを励ます「ブックキャット」として地位を確立。

戦局厳しい中、近隣のネコたちを田舎に疎開させて守ろうと考えたモーガンは、社に出入りする作家たちに連れ帰ってもらうため、彼らの役に立つブックキャットの育成に乗りだした。ミュージカル「キャッツ」は、エリオットの原作詩集に登場するネコがモデルとなっている。

（高田桂子）